
いままで、ありがとう

しげる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いままで、ありがとう

【Nコード】

N7895K

【作者名】

しげる

【あらすじ】

彼女の片足を奪ったのは、紛れもないこの僕だった――

いままで、ありがとう――

彼女はそう言ったきり、僕の足元に視線を落とした。それは、僕に告げられた別れの言葉。

いままで、ありがとう――

もう一度繰り返されたその言葉に、僕は何も答えず、彼女の足元に視線を落とす。そして、その先に広がった光景に耐えることができず、僕は瞼をきつく閉じた。

彼女の片足を奪ったのは、紛れもない、この僕だ。今、僕と彼女が向かい合うこの場所で……。

桜の木。まだ、蕾もつけていなかった。助手席に乗る彼女へ気を向けていたほんの一瞬の出来事。視界の端にとらえた対向車。大きな衝撃。後続車のブレーキ音。僕の車は運悪く、道を塞ぐように横を向いていた。止まり切れない後続車。その行く先は、彼女の乗る助手席へ――

「悪かった……。本当に、悪かった……」

急に膝の力が抜け、その場へとへたり込んだ。ゆっくりと目を開けると、彼女は涙を流していた。車椅子に乗った彼女を見るのが辛かった。なれない車椅子の操作で、少し荒れている彼女の手を見るのが辛かった。……でも、彼女は僕よりもっと辛いんだよね。

別れを告げられても、仕方がない。本当は、僕から切り出さなければならなかったんだ。でも、僕は今日まで、それをする事が出来なかった。

いままで、ありがとう――

そうつぶやくと、彼女が少し微笑んだような気がした。桜の花びらが、雲ひとつない青空へと飛んでゆく。

彼女は、膝に乗せていた花束と、僕の好きだった煙草を、僕の足元へとそっと置き、両親の待つ車へと戻って行った。さようなら。そして、いままで、ありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7895k/>

いままで、ありがとう

2011年1月16日09時10分発行